

長浜市の元気づくり

神照運動公園整備事業 7億918万円

市民の健康と公共の福祉を図るスポーツ・レクリエーションの場となる市民プール(神照町)の建設を進めました。



音楽でつながる地域クレッシェンド事業 432万円

北部地域を中心に、市民との協働による地域活性化と定住化を促進するため、サマーミュージックスクールや木之本JAM BOXの開催、ご当地ユニット「Can'ce♡浜姫」による市の魅力のPRなど、音楽でつながる事業を展開しました。



「交響の郷・余呉」づくり 460万円



市民活動団体などと連携し、旧余呉小学校を芸術や創作活動の学舎として活用しながら、北部地域の活性化を図りました。

多文化共生事業 2,094万円



多文化共生のまちづくりを推進するため、その指針に基づいた行動計画を策定しました。また、外国人集住都市会議の座長都市を務め、関係府省庁との意見調整などを行いました。

環境にやさしい・住みよいまちづくり

長浜市再生可能エネルギー導入促進事業 4,204万円

市、家庭、企業、地域や市民団体等の取組みにより、年間527.8万kWhの再生可能エネルギーを導入し、年間目標(300万kWh)を達成しました。



市民参加の里山づくり事業 701万円

虎御前山に里山モデル林を設置し、里山での森づくり講座の開催や森づくり団体に貸し出し用の機械・器具等を整備し、市内全域の里山保全に取り組みしました。



簡易水道統合事業 3億179万円



地域水道ビジョンに基づき、安全な水質の確保と安定供給、老朽した施設を更新するための工事を進めました。

南田附神前線整備事業 1億1,847万円



市東部と、市西部に位置する中心市街地とを結ぶ重要な路線として整備しました。

すべての項目でクリア

自治体の財政が健全かどうかは下表①～⑤の指標で判断します。本市の平成25年度決算に基づく健全化判断比率は、すべての指標において基準をクリアしています。ただし、基準をクリアすれば問題がないわけではなく、他の財政指標も含めて総合的に財政状況を分析していく必要があります。また、市町合併による普通交付税の特例措置期間が終了する平成33年度以降は指標が悪化することも十分考えられるため、さらなる健全化を進めていきます。

指 標	解 説	長浜市	県内平均	早期健全化基準*
①実質赤字比率	財政規模に対する一般会計を対象とした赤字の割合	赤字なし	赤字団体なし	11.56%
②連結実質赤字比率	財政規模に対する一般会計、特別会計、企業会計すべての会計の赤字の割合	赤字なし	赤字団体なし	16.56%
③実質公債費比率	財政規模に対する年間の借金返済額の割合。これが高いのは借金返済に縛られていることを意味します。	11.1%	9.5%	25.0%
④将来負担比率	財政規模に対する将来負担が見込まれる負債の割合。これが高いと、今後の財政運営に問題が出る可能性が高くなります。	なし	23.2%	350.0%
⑤資金不足比率	公営企業ごとの事業規模に対する資金不足額の割合	なし		

※ この基準をこえると、財政再建のための計画をつくり、立て直しに取り組む必要があります。

平成25年度はこんなことに取り組みしました

観音文化振興事業 1,873万円

観音の里の魅力を全国に発信する東京観音展や瀬戸内寂聴講演会を通じて、市民に観音文化の魅力を伝え、文化振興と都市ブランドの育成を図りました。



戦国の聖地・北近江創造事業(黒田官兵衛博覧会) 3,022万円

黒田官兵衛博覧会を開催して、黒田家発祥の地を全国にPRするとともに、史跡を案内するガイドや巡回バスを運行することで、滞在時間の延長や宿泊客を増やしました。



奥びわ湖桜並木保全事業 284万円



西浅井地域の桜並木約3,000本を「てんぐす病」から守り、自然環境の保全と地域ブランド化を図るため、奥琵琶湖パークウェイから湖岸にかけて約280本の病枝の切除などを行い、まん延防止を図りました。

スポーツイベント開催事業 959万円



生きがいづくりとスポーツへの関心を高め、市民スポーツの振興を図るため、各種大規模スポーツイベントを開催しました。

観光イベント開催事業 5,038万円

盆梅展、花火大会、あっぱれ祭り等の魅力あるイベントを開催し、観光客の誘客を図りました。

